

令和5年度 第6回 伊賀市多文化共生推進プラン委員会 議事概要

日 時：令和5年6月2日(金) 午前9時30分～11時30分

場 所：伊賀市役所本庁2階 202・203 会議室

出席者：オチャンテ村井委員、和田委員、井上委員、西岡委員、尾登委員、辻岡委員、吹上委員、船見委員、竹井委員、上出委員

内 容：

1. あいさつ

○委員長あいさつ

○会議資料の確認

2. 報告事項

(1) 2022 年度外国人住民アンケート調査結果について

○資料No.1 の説明（事務局）

(2) 2023 年4月末外国人住民の状況について

○資料No.2-1、No.2-2 の説明（事務局）

3. 議事

(1) 多文化共生推進プラン本年度事業計画について

○資料No.3 の説明（事務局）

〈質 疑〉

委員長 委員の皆様からご質問、ご意見はありますでしょうか。

委 員 はい、伊賀日本語の会です。事業計画のところ何も入れてないんですけども、毎月同じように取り組みをしていく予定です。あと、伊賀日本語の会、今年が実は設立30周年なんです。30周年記念イベントを企画してまして、今年12月3日に「やさしい日本語」を普及をされている吉開さんをお招きして、吉開さんと船見さんとでトークをですね、講演会をしようかなとハイトピアで考えております。あと、パネルディスカッションと交流会を考えています。やっと昨日プランが固まってきましたので、ぼちぼち公表していこうかなと思っております。なので書き入れてないんですけども、「やさしい日本語」の普及っていうところで、伊賀日本語の会30周年記念イベントでの講演会を入れておいていただいてもいいのかなと思います。それから、これを見ての私の感想なんですけれども、今まで、やはりかかわっている団体、「日本語の会」だったり「伊賀の伝丸」と、あとは多分化共生課が主体となって外国人に対する取り組みをしていましたけれども、市役所の各課が、こうやっていろんなプランを考え出してきてくれたっていうのはすごい素晴らしい進歩

だと思っています。この通りに実施していただければ本当にいいなと思うんですけれど、まず計画をすることだけでも一歩進んだかなってというのが私の感想です。これが本当に実施されれば素晴らしいものになるんじゃないかなと中身も含めてですけれども、まず考えることから始めてくださったことに感謝してます。はい。各課の皆さんにお伝えください。以上です。

事務局

ありがとうございます。私もそのことを伝えさせてもらいたかったんですけれども、これを出したことによって、本当に考えていただく時間を持っていたいて、私達これを見てちょっとご意見をさせてもらったり、こんなこと出来るんじゃないか、というようなご提案をさせてもらえる機会になったので、やはり、このプランはすごく意味があった。ただ、もっとできるんじゃないかっていう思いもございますけれども、今回初めて皆さんが知恵を出していただいたところでは、これからももっとどんどん進めていけるようなプランになっていければなと思っています。

委員

あともう一つ、先ほど AI 翻訳の話ができましたけれども、必ず通訳者の確認をしてください。前に消防で防災の何かやるときに、Google 翻訳で翻訳したものをそのまま載せてたんですね。ちらっとみただけで、何これ？と思って Google 翻訳をやってみたらその通りでてきたんですね。誤訳がいっぱいだった。かなりの誤訳があったんですね。なので、日本語をどう捉えるか少しずつは AI も賢くなってくるのかなと思うんですけど、まだ翻訳アプリによっては賢くないのがあるので、必ずおかしくないか確認してほしいなと思います。それがないと、なんだこれ？っていうような、それこそ笑われるような翻訳になったりとかしますのでぜひお願いします。

委員長

ありがとうございます。事務局どうぞ。

事務局

今委員おっしゃった様に AI 翻訳なんですけども、昨年度中にお試しですることができましたので、実際にちょっとやってみて当課の通訳相談員に確認してもらったところ、やはり不評でした。不評だったんですけれども、それでも導入したのは、他課からの依頼があったときに Word の原稿がもらえる場合は翻訳しやすいんです。日本語を多言語に翻訳すると、どうしても文字数が増えるんですね、Word だとどんどん下に長くなっていくだけなので、問題ないんですけれども、例えば多いのが子どもの健診票ですとか、Excel の表になったものですとか、PDF 化されたものですと翻訳が大変しづらいです。今回導入した AI 翻訳は、PDF ですとか Excel の形式であっても、一旦貼り付けてそのまま自動翻訳された後にこちらの通訳者が修正することが可能です。修正したものがどんどん蓄積されていって次の翻訳のときに伊賀市の場合はこの単語はこのように翻訳するっていうのを更新していけますので、最初は変な翻訳にはなるかなと思うんですけども、どんどん使っていけば、納得できるものになるのではないかとということで導入することにしました。おっしゃっていただいたように必

ず翻訳を確認させてもらって、住民の方に迷惑のかからないように利用してきたいと考えております。

委員長 ありがとうございます。1 からするより元があるほうがほんとに助かるのでね。その他にご質問、ご意見は。

委 員 上野商工会議所です。17 ページなんですけど、「上野商工会議所」ということで、「外国人起業家への支援」をあげていただいてるんですけど、上野商工会議所は旧上野市のエリアだけということになりますので、どの業務も実は伊賀市商工会も対応やってるはずなので、確認の上ですね、追記いただいたらと思います。それとですね、この項目にはないんですけど、ずっとですね私どもの経済団体の役割としてですね、会員企業さんとやっぱり繋がってるっていうところがあって、いわゆる外国人住民っていう視点ではなくて、外国人を雇用している事業主っていう視点で繋がりが持てるんとかちがうかというふうに前から思ってたして、残念ながらここに項目がなかったので、書くところなかったんですけど。ですのですね、例えば毎月会報誌を発行してるんですね。そうすると、例えば「事業主の皆さんへ」っていうことで外国人のことについてそういうお知らせとかお願いとかですね、場合によってはアンケートとる場合でも利用いただけるかなって思いますので、ちょっとそういう視点も持っていていただいそうですね、どこかへ挙げれるようでしたらご検討いただいたら、より「住民」っていう視点と、いやそうじゃなくて「外国人を雇用している事業主」の視点と二つが効果的に作用すると思いますので、ご検討ください。

委員長 それでは事務局お願いします。

事務局 ありがとうございます。この計画を立てるときに商工労働課の方に何かそのような仕組みはないんだろうかっていうことで課長の方をお願いをしてきたところなんですけれども、85 の事業者さんのメールボックスみたいなものは管理してるから、それだったら情報発信できるっていうことで、言ってはいただいたんですけども、ただ、おっしゃられるように外国人住民の雇用がある企業が・・・

委 員 実際ですね、会員さんの中でどれだけの企業さんが外国人を雇用されてるっていうのは実態調査をしてみないとわからないんですけども、上野商工会議所で約 1500、伊賀市商工会で多分 800 ぐらいは会員企業なので相当部分の企業はカバーできるので、そういう情報は私どもから事業主さん、会社あてには伝わるのかなというふうには思います。

事務局 ありがとうございます。どうしていいのかな、ってちょっとすごい悩んでいたところなので、またいろいろご協力いただけたら、私たちが持ってる情報を企業さんに発信するときに委員さんの方にまたご相談させていただきたいなと思いますのでよろしくお願いいたします。

委員長 ありがとうございます。その他にご意見などは。

委員 私通訳として意見なのですが、「通訳を雇用する」だけではなく、その通訳の人たちの質も高めてほしいです。ちゃんと仕事をしているか、とかクレームがないのかとか、そういう通訳の何か勉強会。ブラッシュアップ研修。それとさっき言っていたみたいに AI 翻訳に関しても確認した方がいいと思います。私も結構いろんなチラシとかをみて、「ああ・・・」と思うとき何回もあるし、あとプラス「やさしい外国語」も考えた方がいいと思います。別の通訳の方と一緒に仕事した時、その通訳は結構年配の方で、ちらし、紙とかは情報はちゃんとした硬いポルトガルで書かないといけなと言われて、でも意味ないじゃないですか。お客さんが通訳を呼んで、「このポルトガル語の書いてある事を教えてください」って言われてもチラシの意味がないんで。伊賀にいる外国の方、私はブラジルなんですけど、ポルトガル語自身も硬いポルトガル語が分からない方が多いんです。

委員 ちょっと補足すると、伊賀に住んでる外国人の元来母語である、ポルトガル語でさえも、低レベルの人がいればハイレベルな人もいるので、英語にもあるんですけど、プレイン・イングリッシュという考え方があって、アメリカだと実は住民に対して優しい英語で情報発信しなきゃいけないという条例がある州があるぐらい、そういう考えですよ。

委員 はい、そういう考えです。なのでそれも入れた方がいいと思います。私が通訳する時に「ついでにすいません。これちょっと助けてくれないか」って言って。ぱっと見たらめっちゃポルトガル語やのに「助けないといけない?」「書いてることがちょっとわからないんです」って。私もぱっと見たらわからなくて結局日本語を見ながら教えたりする時多くて、なのでそれも伝えた方がいいのかなと思います。

委員長 ありがとうございます。では、事務局どうぞ。

事務局 ご意見ありがとうございます。すごく貴重な意見でございます。その通訳の話なんですけれども、私たちも日々相談の中で感じている部分がございます。今回この計画の中にも研修は必ず1回以上なんですけれどもするっていうことで、年度末ぐらいから計画を立ててまして、入管庁が発信しているような研修会の方も早速取り入れていこうということでさせてもらいますし、コロナもあって行かせてもらえてた研修も行けなかったというところもあるので、そのへんの取り組みと、あと相談の中で、私も去年1年目でプランの策定に追われていて、みんながどんな相談を受けているのかとか、正直把握できていなかった部分があるんですけれども、今年度は相談に職員が入って中継的なこともさせてもらってまして、他の機関とか他の部署に繋ぐときには、どんなことを話していたのかということをしつかり聞きとって、分からないことはもう一度本人に聞き直したりと、フォローをさせてもらおうとともに、毎月1回通訳者の定例会っていうのを必ずしておりまして、そういったところで情報共有とか、積極的に話をさせてもらおうような機会を持たせていただくということで通訳者のレベルア

ップをしっかりとしていこうということですけれども、他の部署にも通訳者がどんどん入ってきておりますので、そういったところにも声かけをさせていただけたらなと思っています。

「やさしい外国語」の話すごく勉強になりました。確かに日本語についても、日本の行政文書は難しくて、「やさしい日本語」は高齢者にも障がいのある人にもやさしいというのがその辺だと思うんですね。外国の人と同じなので、うちの翻訳についても、そうですね、「やさしい外国語」でいろんなものを情報発信していくということで調整をさせていただきたいなと思います。ご意見ありがとうございます。

委員長 ありがとうございます。それではその他、ないでしょうか。

委員 日本語教室です。昨年度から「やさしい日本語」の重要性について何回か発言をした中でかなり「やさしい日本語」の優先順位が高まったのが良かったかなと個人的に思っています。それに伴って、各部署の方結構「やさしい日本語」の研修に前向きな計画を立ててくれているのも嬉しいなと思うんですが、例えば多分化共生課さん5ページで、研修会の実施必ず1回と書いてあるので、これちなみにやるとすれば、今年度だったらもう対面でおそらくされるんですかね。またはオンラインとかいろいろ形式あると思うんですけど、各部署さんもそうなんです。

事務局 多文化共生課実施の行政職員向けのやさしい日本語研修について、昨年度は2月に入管庁の方から講師に来ていただきまして、コロナ禍ではあったんですけども、入管庁の職員の方もオンラインより対面の方が研修として効果的だと思うのでということで、名古屋の方からお越しいただきまして対面で実施しました。受講していただいた職員の方からも、大変わかりやすかったと。窓口で実際に使っていける「やさしい日本語」の使い方を教えていただきましたので、できれば引き続き今年度も実施したいなというふうに考えております。

委 員 対象は基本的には職員さんの場合って受けられる受講者の方は職員さん対象ですよ。例えば私一応いつでも取り組んでるから、オブザーバー的に見学とか可能なんですか。

事務局 はい。来ていただくことはすごくありがたいので、また研修についてご案内をさせてもらって、あの、船見先生のご意見もいただけたら、すごくありがたいのでまた別途ご連絡させていただけたらなと思ってます。

委 員 はい。わかりました。お願いします。以上です。

委員長 ありがとうございます。

委 員 全体的なことなんです、このようにもちろんここに書かれているのは、市内の全てではなくてとりあえず庁内は網羅していただいていると思うんですが、うちは出したから一応パラパラ載せてもらってるっていう感じなので、もちろんいろんなところであるいはそれぞれの地域で取り組みをされてるところ、まだまだなところ、あると思うんです。これだけで、全体を把握することは不可能で

すがある程度出ているので、例えばうちだったらこういう取り組みをされているんだというふうに理解をしながらやっていけるというのはとてもありがたい。ただ「これをどう活かしていくのか」というのがこの会議の設置なのかなと思うので、弱いところ、あるいは他にやってないのか、質というか内容が実際にどうなのか。例えば、こどもたちの進学率、これ昨日の会議で数値いただいたんですけど、でも、専門学校行ってる子とかはどうなのか。

事務局 私も会議で「数字が違うな」ということ気がついて確認をさせていただいたんですけども。数字、実は進路ガイダンスに出していただいている数字でどうもずっと把握をされてるということだったので今回提示させていただいたんですけども。実はこの進路ガイダンスで出している進路状況の調べというのは、日本語指導が必要な生徒ということの数なので、私がまず書かせてもらってあるのは外国籍だと思われる数字 30 いくつっていうのはその違いがあるということだったので専門学校はこっちに含まれていますね、進学に含まれます。

委員 そうなんです。これ、去年っていうかこの3月っていうことですね。

事務局 そうです、この3月です。

委員 まず、ちょっとその数字が。それもまた周期の取り方なんですけど、たぶん進学を希望しない人は入ってないと思うんですよ。入ってるんですか。

事務局 そうですね。これ多分もう来週か進路ガイダンスのほうで出るんですけども。

委員 何かいつも進学を希望しない人は入ってなかったと思うんですけど。

事務局 そうですね。事前に学校教育課のほうにきめ細やかな運営協議会の資料の数字を拾っているんで、その令和5年3月卒業の数字を事前に教えてほしいってということで聞かせてもらって。最初に回答があったのが資料のほうに挙げてある39名中37名が進学ということだったんです。その他の2人については、1人については帰国準備中ということだったので分母から外しまして一旦出そうと思ったんですけども、昨日別の会議で学校教育課のほうから聞かせてもらった話では日本語指導が必要な生徒のうちですと19名中18名が進学で1人については、昨日会議に参加されていた方はお聞きになったように帰国されるということだったので。それだったら、この令和5年3月については18名中18名で100%になるのかなって。

委員 多分、進学を希望しない人はそもそも入っていないんじゃないかなと思うんですけど入ってるんですか。進学率というところの計算に入ってなかったりするのと、要するに「もう就職したいんです」というふうに学校に言っている子どもたちとか。

事務局 就職は0で挙がってます。

委員 例えば日本語指導が必要であるとされていない子どもたちでも、いろんな支援が必要なケースは私もたくさん知っていますし、日本語が母語で日本国籍でも、家族は全員外国人で非常に苦しい。進学の希望があってもそれを口にする

ことすら難しいとか、そういうケースもあるので「伊賀は100%だからOKね」っていうふうにどうしても数字だけ上がると捉えがちだと思うんですが、実態は結構しんどいケースもいくつか、たくさんあるっていうわけではないんですけど、やっぱりそのへんも数字の取り方も慎重にどういうことで数字を取ってるかっていうのも、できれば挙げていったほうがいいのかな。それを見たうえで「進学希望のうち100%」とかあるいは「進学を希望できなかった人が3名いる」とか、もしそういう情報があれば。もう1回ちょっと私も学校教育に確認しますが、毎年そのへんがちょっと曖昧で。例えば、去年進学できなかった子が今年も進学できなかったとかそういうケースがあるので。伊賀市は比較的高いとは思いますが、かといって安心というわけでもない。そういった数字の出方とか、あといろいろ皆さん本当にたくさん関心を持って声かけをして調べていただいたから、声かけていただいてプランができたからだと思うんですが、「取り組む、取り組んでいきたい」というふうに書いていただいています。例えば、「日本人も含めてこれに取り組んで何回」という回数があると思うんですが、じゃあ、その中で「やさしい日本語の広報をしたのか」とかそういうところもぜひ次は確認をできたらいいかなあと。それが真の成果だと思うので「何回やりましたけど、特別何も毎年同じでした」「多文化のことは特にしてない」だとかちょっと進歩がないのでそのへんも少し意識していただきながら次は集計を。後は、これを見て私たちがこの委員会があるいは市がどういうふうに考えていくか。「ここが足りない」とか「ここはこことここを結び付けたいか」とかをぜひ。私たちも考えますし、考えていって次の会議に臨めればと思います。

委員長
事務局

ありがとうございます。事務局。

先ほどの進学の状況についてっていうところ、私も昨日ささゆりの会議で数字が違うっていうところで「あれっ」と思って確認をさせていただいてたんですけども。ただ、この元々拾っていた数字は日本語指導の必要な生徒ずっと追っていたという状況があったので今回はこの数字を基に報告をさせていただきます。ただ、別に持っている外国籍、外国ルーツだと思われる、ちょっとそのへん曖昧なところがあるので、多分学校もあまり公表してない数字かなというところもあるので、それも学校教育では持ってくれてまして、そういった生徒は39人おって進学者は37人、就職等準備中・無職っていうのがお一人っていうような数字は持ってはおられるんですけども、今回のプランではあくまで日本語指導の必要な中学校卒業後の進路状況っていうところで追っていたもので、それで報告をさせてもらってるんですけども、そういった、裏打ちのところも実態として学校教育と連携は取っていかれたらなと思っています。委員言われたように、実績というところでは、行政のプランって数値目標・数値でずっと追っていくというプラン立てがほとんどなんですけれども、おっしゃられたように数値が問題ではなくって「何をやるのか」っていうのが大事だ

委員　そういうことであれば、もちろん、その比べるものが元が違っていれば難しいと思うので、この指標のところに、例えば「高等学校への進学率（日本語指導が必要な生徒で希望をした者）」とかちょっと注釈を付けていただくと「そういうことなんだ」と理解をしながら市民の方も読み取っていただける、そういう形ででもと思います。またご検討ください。

委員 先ほどの話であれば、データの出どころとか定義やら条件とかをはっきりして正しく評価できるようにできるようにしたほうがいいんじゃないかと思ったのと、そうであれば、毎年 1%ずつ上げて行くとは分母が少なかったら無理なんじゃないかなと思ったので、それだけです。それこそ、絵に描いた何とかなるんじゃないかな。だから、そこの見直しちょっとどうかとは思いますが。

委 員 もう1点、聞いてもいいですか。ふとした疑問なんですけど、この下に「みんなで始めよう」って翻訳されてるんですけど、伊賀市のホームページ、多文化共生センターのホームページに挙がってるんですけど。

委員　それを翻訳されたものは挙がってるんですか。

委員 挙げられるんやったらそれで結構かなと思う。

というのも、一番後ろのページに市民って書いてあって、「皆さんが多文化共生に関心を持ち、できることから取り組んでいただけるようご理解とご協力…」って書いてありますけれども、この市民っていうのはもちろん外国籍の人も入るよねと。そうしたら、その人たちの目に入らないんじゃないかなと思ったまでです。

事務局 はい。ちょっと遅れてますけれども、必ず多言語でというのがうちの務めだと思っておりますので準備を進めてます。

委員 いいなと思ったので。これ、市以外で何か皆さんの目に留まるような場に出すということは考えられてますか。

事務局 先ほどもご説明させてもらったんですけども、まず4月20日に生涯学習支援員のほうに研修に行かせてもらった時にこのプランを持って行きまして、渡すとともに中身の簡単な説明をさせていただきました。ボランティア入門講座のほうでも概要版を持って行かせてもらったり、出前講座をさせてもらう機会には概要版を持って行って中身の説明をしていく。対面で説明していくっていうことを進めていきたいなとは思っております。

委員 特定の人が集まる会ってということですか。
市のホームページ以外で一般の人が目に触れるような場っていうのはないのかなと思って。広く見てもらったほうがいいんじゃないかなと思う。その特定の人が集まってその話を聞いて、そこから広がるってのもあるんでしょうけど、幅広く見てもらえるっていうのが、冒頭のアンケートでも情報発信に力を入れていかなあかんって言ってたので、何か他にあったらより良くなるんじゃないかなと思っただけです。

事務局 そうですね。私たちも知ってもらうということから始めないといけないので、また情報を出す方法を検討していきたいと思ってます。

委員 これは市民に配布はないんですか。概要版、広報と一緒に配布、そこまではない？

事務局 ちょっと難しいです。

委員 そうしたら、例えば「それぞれの団体に配るからください」はOKですか。

事務局 はい。ただ、この印刷できたのは実は200部だけなんです。コピーでも十分同じものができますので、もしご希望あって配っていただければということがあれば私たちのほうで用意してお渡しさせていただきます。

委員 分かりました。そうしたら、それぞれの団体の会員であるとか。

事務局 すごくありがたいです。

委員 それね、リンク貼るだけなんで、フォームもあるってことですし、市のそこへとべばいいだけなので。だから、皆さんのところでホームページに掲載可能です。

委員 それもそうですね。ただ、できる状態じゃない、お年寄りそれができない人もいると思うので、お年寄り向けに冊子があればいいかなというのは。

事務局 そうですね、紙で必要な分はおっしゃっていただけたら私たちのほうでご用意させていただきますので。

委員 また翻訳ができれば、ホームページとかに載せていただけたら、フェイスブックとかね。で、LINEとかでシェアや拡散はできるので、そのへんの人たちとそれを使いこなしていないちょっと年配の方向けの部分とかもあればまたお願いしに行きます。

事務局 ありがとうございます。私たちもどうして拡げるのがいいのか、どうしたら1人でも多くの人の目に触れるのかなってというのは問題になっているところなので、皆さんのご協力をいただけるということであれば私たちができる最大のことをさせていただきますのでよろしくお願いします。

委員長 ありがとうございます。そうですね、こういうQRコードとかすぐダウンロードできるような形とか、あとはもちろん、ペーパーレスも今後考えないといけないのでそれが1つと、あとは高齢者、ほんとに苦手な方もいるので両方ともね、出来たらいいなと思います。ありがとうございます。その他のご意見は。

委員 すいません。今、小田の自治会のほうで外国人さんのごみ出しの問題、これが大きくクローズアップされていて、いろんな文書を多文化さんのほうで翻訳してもらってます。ただ、これ（ごみアプリ外国語版のちらし）もね、外国版ってないのかな。

事務局 今、ご案内をして外国版で見れるようになってます。

委員 いや、この文書自体。ようは、ここまで行き届かないですよ。

事務局 そうですね、お配りさせてもらって私も思いました。多文化共生センターのフェイスブックでは多言語でお知らせさせてもらったんですけども、委員おっしゃられるように、地区で周知していただく時にネット等で見てもらうのはもちろんなんですけれども、そうやって紙でお渡しするものがあつたほうが地区でも広めてもらいやすいかなと思いますので、またさくら（リサイクルセンター）のほうとも相談しまして、このチラシの翻訳も取り組みたいと考えております。ご意見ありがとうございます。

委員 またできましたら私のメールのほうにいただければこちらで必要部数コピーしますので。

事務局 ありがとうございます。委員のほうと共有できたらいいかなと思いますので、もらってるメールアドレスのほうに送付させていただきます。

委員長 その他、ありますでしょうか。他の委員さんはどうでしょうか、ご意見。

委員 2つなんですけれども早く言います。まず、結構皆さんフェイスブックって言うんですけど、外国の方インスタグラムのほう使ってるんで、私の知り合いとかでもフェイスブック使わない人がだんだん多くなってきました。そこもちょっと考えたほうがいいのかもしれないし、あと、外国の方もライン使わないんです。特にブラジルの方はライン知らない方も多いで、例えば、ブラジル人がよく使うのは「WhatsApp」というものなんですけど、そういう国ごとで

よく使ってるものを調べてそこでも挙げればいいと思いますし、あと、最後なんですけど、さっき高等学校への進学率の話で思ったのが、ほぼ 100%じゃないかと言われた時に私は「ん？」って思ったんです。私の知り合いの子どもさんは普通に進学せず仕事してるから「その人はどこに入ったのかな」と思ったんです。あと、帰国したってことは「もし、日本にいたら進学してたんちゃう」って言われて。でも、結構何か問題が起きて帰国する人も多いんで、たぶんそういう理由だとほぼ 100 じゃないんじゃないですか。なのでさっきの話に賛成します。以上です。

委員長 ありがとうございます。年齢ですね、やっぱりフェイスブックはおそらく 40 代・50 代とか、インスタは 20 代・30 代で、最近は TikTok も若い人は使ってる人が多いと思うので、そういう幅広く SNS を利用して行くのが一番賢い方法かなと思います。ターゲットが違うので。ありがとうございます。

他にご意見ありますでしょうか。では、みなさんからいただきました意見の反映については、軽微なものについては、修正を事務局に一任することよろしいでしょうか。他に無いようでしたら、提案通り承認とさせていただきます。では、4. その他に移ります。事務局お願いします。

事務局 皆さん、本当に慎重なご審議と貴重なご意見をいただきましてありがとうございます。プランの方、いただいたご意見で修正できるものについては事務局のほうで修正のほうさせていただいて、今年度庁内の各課で取り組みのほうを進めて行きたいと考えております。また、各種団体の皆さんにおかれましても計画に挙げていただいた取り組みの方、またよろしくお願いいたします。

それでは、最後に今後のスケジュールの確認と委員会の役割について説明させていただきます。今年度の多文化共生事業の取り組みとして、先ほどご承認いただいたとおり各事業主体で進めていくこととします。次回の委員会の開催につきましては、各主体の 1 年間の取り組み状況、また本年度も昨年度同様外国人住民アンケートを実施しますので、指標の現状値についても確認していただく予定です。開催は来年 2 月ごろを予定しております。また、プラン委員会の中で専門部会を設置することができますので、途中で説明しました生活ガイドブックの作成にあたって「暮らし・教育・子育てグループ」のメンバーの委員さんについては、生活ガイドブックの内容についてぜひご意見をいただければと思っております。だいたい 8 月ごろに専門部会のほうを予定しております。ご出席いただく委員さんにつきましては、また後日ご連絡させていただきますので、お忙しいとは思いますが専門部会のご出席のほうもよろしくお願いいたします。なお、皆様の委員の任期につきましては一旦今年の 11 月 14 日をもって 2 年間の任期が終了となります。2 月の実施の取り組み結果につきましては、新しい委員さんのほうでご審議いただくことにはなるんですけれど

も、皆様におかれましては引き続き委員のほうをお願いできたらと思っておりますので可能な限りご協力のほうをよろしくお願いいたします。委員の改選につきましては、改めて各団体様に向けて委員のお願いですとか、あと公募の委員様につきましてもまた市民の皆様に向けて委員の公募のほうお知らせさせていただきます。以上です。

委員長 ありがとうございます。このことについてご質問などがありましたらご発言ください。大丈夫でしょうか。それでは、その他、事務局から何かございませんか。もしなければ、皆様からの情報共有あれば。先ほど、日本語の会から30周年のお話があったんですが、日程が聞き取れなかったのもう一度教えてください。お願いします。

委 員 伊賀日本語の会の30周年記念事業として、12月3日、日曜日の午後1時半から4時半。場所はハイトピア5階を予定しております。まだチラシはできていないのでできたらまたリリースさせてもらいますので、内容としては、「やさしい日本語」の講演会とパネルディスカッションを前半部分に持ってきて、後半は伊賀日本語の会が30年歩んできた歩みについて過去に関わった学習者の人とかスタッフの人と振り返り、これからをまた考えるようなプランをしています。ちなみに、やさしい日本語の部分についてはだいたい来場人数100人ぐらいを予定しています。80～100座ればいいよねということを想定しているので、もし都合が合う方がいれば広く来てほしいというのが本音です。以上です。

委員長 ありがとうございます。またチラシとかメールとかあればと思います。他の委員の皆さん、いかがでしょうか。お願いします。

委 員 伊賀市国際交流協会ですけども。例年、国際交流フェスタ実施しているんですけど、今年はコロナもちよっと落ち着いてきましたので、中止とか食べ物の屋台出さないということできてたんですけども、今年はですね、一応予定としてです、10月1日。それから場所につきましては、ひぞっこさん前の駐車場をお借りして通常どおりのフェスタを開催予定でございますので、計画それからチラシとかできましたら配布させていただきます。参加のほうよろしくお願いいたします。

委員長 ありがとうございます。その他の委員の皆様から何かご意見、また何か共有したい情報がありましたら。よろしいでしょうか。では、他にないようでしたらこれで本日の議事を終了させていただきます。委員の皆様方、会議の円滑な進行にご協力いただきありがとうございました。それでは、事務局にお戻しします。

事務局 はい、失礼いたします。委員の皆様方には長時間にわたり慎重なご審議をいただきましてどうもありがとうございました。これを持ちまして、第6回伊賀市多文化共生推進プラン委員会を閉会とさせていただきます。どうもありがとうございました。